

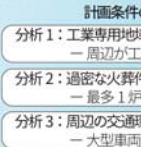
件名 東部方面斎場 (仮称) 整備工事に伴う設計業務委託

事務所の商号又は名称

株式会社石本建築事務所 横浜事務所

故人の尊厳を守り、遺族をいやす旅立ちの舟

故人との最後のお別れにふさわしい格調ある空間を大黒の地に創出します。遺族の心に寄り添い、厳かな葬送を営める斎場を実現します。



- 「スムーズに厳かな葬送を可能にする」3つの提案
- 提案1: 中庭を囲む構成 - 静寂で緑豊かな空間の確保 -
- 提案2: 2ゾーン化された回遊動線 - 混雑を1/2にする -
- 提案3: 渋滞・滞留を起さない車両動線 - 滞溜のないスムーズな着席 -



みなと色彩計画を踏まえた落ち着いた外観

提案項目(1)「施設計画の基本的な考え方」

(1) 機能的な儀式・管理動線により「スムーズに厳かな葬送を可能にする斎場」を実現

● 故人との最後のお別れの場としてふさわしい施設計画

■ 内外の喧騒を感じさせないお別れの場

● 中庭を囲む静寂な斎場

● 周辺環境を遮断する中庭型の構成: 緑豊かな中庭を囲み静かに故人のお別れができる。



● 半内部化された厳かな車寄せ

● 周辺工場倉庫が見えない車寄せ: ルーバーにより目隠し。

● 半内部化し強雨時も車が濡れない: 故人の尊厳を守る。

内外の喧騒を感じさせない施設計画

● 場内の静寂を保つ: 火葬炉ファンは防振架台を設置。火葬炉室、炉機械室には吸音材張り。

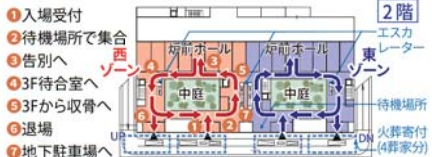
● 防臭に配慮: 隣接する工場の反対側に給気口を設ける。

● 施設利用者から円滑に遺族の葬送行動を促す動線計画

■ スムーズな葬送を可能にする機能的な儀式動線混雑を半減する、2ゾーン化された回遊動線

● 2ゾーン化により混雑を半減: 場内を2つのゾーンに分け、各葬家が交互に入場することで混雑を緩和。

● 他葬家との交錯を防止: 入口と出口を分けて一方通行の回遊動線とすることで、円滑な葬送を実現。



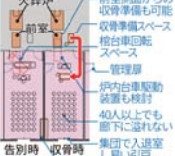
迅速な入退場を可能にする動線計画

● 迅速な入退場 4 葬家が停車できる火葬寄付: 混雑時には1階の臨時火葬寄付からも入退場可能。

● 地下駐車場と1階、2階はエスカレータで移動: 迅速な入退場が可能になり葬送の遅延を防止。

スムーズな儀式的な進行を可能とする炉前ホール

● 火葬の進行を熟知した設え: 台車の回転スペースや管理扉、収容準備スペース等迅速な儀式的な進行を可能とする炉前ホール。



あらゆる人が使いやすい斎場

- 高齢者、車椅子利用者、子供連れ、職員に配慮。
- 高齢者への配慮: 床は滑りにくい素材、炉前ホールには手すり、手荷物を置きやすい大きなサイン、車椅子利用者用駐車場を出入口直近に配置し、介助呼び出しインターフォンも設置。
- 車椅子利用者への配慮: 受付カウンターは2段カウンター、車椅子利用者はEVとは別に設置。
- 乳幼児、子供連れ、子供連れの参列者への配慮: 授乳室をキッズルームに隣接、屋上底面等多様な待合の居場所を用意、ベビーカーを用意、屋上には落下防止対策、誰も分りやすいサインが動線、誰もが安全に完全2方向移動、職員の安全にも配慮した施設計画、四季の小道の管理を高齢者、ボランティアの活動の場とする。

みなと色彩計画を踏まえた景観づくり

● 緑のネットワークを整備: 産業道路に面し四季の小道を設け、緑をつなぐ。潮風に強い植栽を採用、屋上も緑化し、斎場の潤いある景観づくり。

■ 緑・景観・交通、様々な周辺環境を考慮した計画

● 「横浜みどりアップ計画・緑をつくる」「京浜の森づくり」

● 緑のネットワークを整備: 産業道路に面し四季の小道を設け、緑をつなぐ。潮風に強い植栽を採用、屋上も緑化し、斎場の潤いある景観づくり。

● 洗滞・滞留を起さない車両動線

● 車両のINとOUTを分ける: 車両の交差を避け入場車の公道での滞留を防止。

● 待機車線を設ける: 公道、構内の滞留を防止しスムーズな着席を計画。

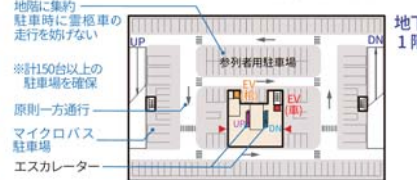
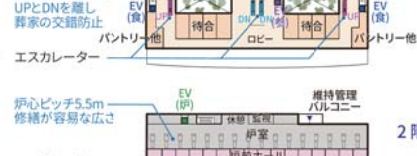
● 東側道路での大型車両との交錯を防止: 7割強を占める鶴見方面の車列が極力東側道路を通らない車両動線。



約400台/日(日中)の車両をさばらせる車両動線を提案。

平面計画イメージ

- 火葬ゾーン ● 待合ゾーン ● 式場ゾーン ● 霊安ゾーン ● 管理ゾーン
- 参列者出入口 ● 管理運営出入口 ● 上りESC ● 下りESC
- 参列者EV ● 車椅子EV ● 飲食搬出入EV ● 棺用EV ● 炉管理EV



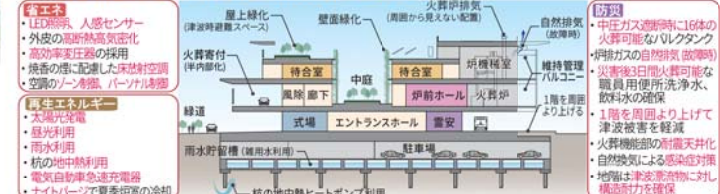
(2) Zero Carbon Yokohama を推進する「環境にやさしい斎場」を実現

● エネルギー効率の高い機器選定や再生可能エネルギー利用など環境負荷低減につとめて提案

● 持続可能な大都市横浜の実現に貢献し、災害後も継続可能な斎場を実現

● 管理技術者は CASBEE 評価員: BELS☆☆☆☆、CASBEE 横浜 S ランク同等以上を目指す。

● 再生エネルギーを積極利用、省エネルギーを促進: CO2 排出量を削減。災害にも備える。



災害時の火葬の継続

● 構内道路は液状化に備え地盤改良: 震後も火葬車両が通行可能。

● 予備燃料を確保: 電力遮断時に備え 3 日間火葬可能な発電機燃料を装備。中圧ガス遮断時には 16 体の火葬可能なバルクタンク。

津波への対策

● 構内道路は液状化に備え地盤改良: 震後も火葬車両が通行可能。

● 予備燃料を確保: 電力遮断時に備え 3 日間火葬可能な発電機燃料を装備。中圧ガス遮断時には 16 体の火葬可能なバルクタンク。

木材活用制度に留意した内装材選定

● 市、県の木材活用制度に留意: 横浜市公共建築物木材利用ガイドライン、かながわ県産木材産地認証制度、かながわ木づくまい運動に留意し内装を木質化。

● 森林育成を考慮した木材利用: グリーン購入法に適合する木材、合法合板型材の使用。

適材適所の木質化、歩留まりの高い木材利用

● 火葬場のため不燃化木材を使用: エントランスホールや待合室の内装を県産材により木質化。

● 仕上材以外にも県産材使用: 家具、サインなどにも県産木材を利用。

● 歩留まり向上: 節が多い材や変形が大きい材料も適材適所に利用。

提案項目(3)「業務の成果物等の品質確保、業務の進め方を取組体制」

● 成果物報告書及び図面、権利関係等の品質向上を図るための方法

● マジックの組立て方、管理方法や工事監理体制などの業務の進め方

(3) 火葬場設計 8 件の豊富な斎場設計の経験を活かした業務推進

● 確立された社内チェック体制

● 葬社 ISO システム、社内レビューの実施: 定期的に進捗、品質、顧客要求の反映を確認。

● 社内ダブルチェック: 弊社技術グループにより設計図書、積算関係書類を確認。

● 市内他斎場へのアタリリング: 運営方法、問題点などの聞き取りを行い、取組に反映。

コスト削減を意図した設計推進

● 初期段階からコスト管理を徹底し予算を遵守: 社内第3者 VE を実施しコスト超過での手戻りを防止。

● 費用対効果を検証: 床面積や構造方式等コストに影響の大きい項目の複数案比較検討。

工事監理体制

● 設計者が引き続き工事監理を担当: 設計時の協議内容を確実に工事に反映。

● 多数の分割工事を監理者が統括: 工事工程、施工図工程、納まり等総合的に監理。

● 弊社技術グループの参画: 高技術で客観的な工事監理。

● 火葬炉工事に通じた管理技術者が調整: 火葬炉工事と他工事の工程調整を行う。

● 土木工事担当者による調整: 道路工事との取組合いを調整。

● PM/CM 支援: 客観的な視点から工事監理を監査。

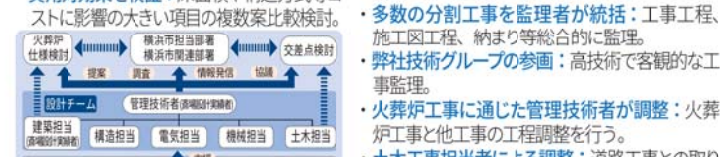
専門性の高いスタッフによる連携・調整

● 豊富な斎場実績がある管理技術者: 建築担当者も斎場設計実績者。火葬炉業務と密に調整。

● 道路設計のノウハウを有するスタッフの参画: 交差点業務とのスムーズな連携。

● 定期的な進捗調整: 横浜市様、建築、火葬炉、道路設計4者で進捗、計画案を定期的に調整。

● 庁内、関連工事設計者との調整のハブ: 調整会議の開催、情報の一斉発信など、調整のハブとなる業務を推進。



関係者間の連携等を行うための取組体制

専門性の高いスタッフによる連携・調整

豊富な斎場実績がある管理技術者: 建築担当者も斎場設計実績者。火葬炉業務と密に調整。

道路設計のノウハウを有するスタッフの参画: 交差点業務とのスムーズな連携。

定期的な進捗調整: 横浜市様、建築、火葬炉、道路設計4者で進捗、計画案を定期的に調整。

庁内、関連工事設計者との調整のハブ: 調整会議の開催、情報の一斉発信など、調整のハブとなる業務を推進。